

NOV 2 1 1934
圖書部

佐伯史談

第五十八号

神戸文研究誌
通算第八十号

昭和四十四年十一月廿八日

佐伯史談会

事務局 佐伯市大字福須龍蔵寺羽柴寺

主張

三の丸御殿の保存について

佐伯史談会

会長 高水嘉吉

文化財を語る時、先づ何時、どんな由来でどこに出来たか、が問題になる。

何時については、年代を終えたものほど、由来については、はつきりしているものほど、その文化財は尊いものとなる。更にそれが稀少であることと於いて、其の文化財の価値は一層高いものとなる。

三の丸の御殿は、右の点から見ても貴重文化財である。三の丸は、慶長六年から明治元年まで二百六十余年、佐伯地方を統治した毛利氏の居館であった所で、現存の御殿はその中心をなした建物である。

三代高尚が寛永年間、構築したと伝えられているが、三百余年の星霜を経て、いらか高く聳れる姿は何となしに三の丸を訪れる人の郷愁をそそぐつて、佐伯の歴史を回顧させる。三の丸とその他に唯一つ残っている御殿は、佐伯の歴史のシンボルと言つても過言ではない。

明治維新の混乱に際して、多くの城廓や藩主の居館寺が破壊されて姿を消した中で、此の御殿が昔ながらの姿を止めてゐることは何といつても嬉しいことであり、又それだけに稀少価値の高いものである。若し適当に働きかけざるならば、県指定、或は国指定の重要文化財となることも可能と思われる。

三の丸は一般に解放されて、佐伯人士の憩いの場となつてゐるが、ここに足を運ぶ時、山際水明の境によく調和した御殿が湿かく人々を迎へ、疲れた人々に、いらいらしてゐる人にあせつてゐる人、心の安らぎを興える。佐伯市の文化会館建設のため、此の御殿が取り壊されるのではないかと伝えられて、聞く人々の心を暗くしてゐる。他

本号内容

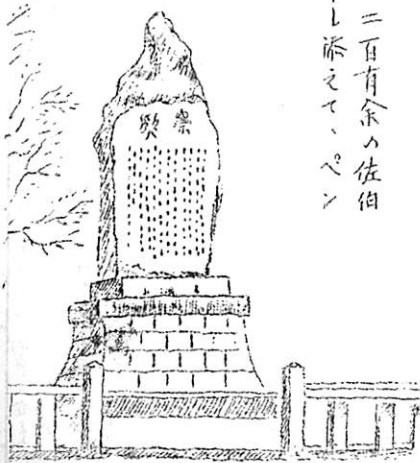
- 一 御殿 三の丸御殿の保存について(高水嘉吉)……………
- 二 研究 田原阪家勉碑(益田浩)……………
- 三 研究 佐伯教育の模範時代(四)
- 四 研究 三の丸の三寺(高水嘉吉)……………
- 五 研究 神皇の天カ(高水嘉吉)……………
- 六 資料 藩は所の庄屋文書(羽柴 弘)……………
- 七 研究 二つの森林記(念群)(山本 保)……………
- 八 (昔交録) 高水嘉吉(高水 保)……………
- 九 記録 佐伯の歴史と文化を語る会……………
- 一〇 記録 佐伯の歴史と文化を語る会……………
- 一一 佐伯港 (高水 保)……………
- 一二 記録 国史と高水嘉吉文化の断片……………
- 一三 記録 中井宗訪問記……………
- 一四 三 藤会堂の贊助実録……………

郡市の文化財を採訪する機会を折々持つているが、市所
 持でこれらに文化財の保護、顕彰、宣伝に力を入れてい
 ることが分つて、心温まるものがある。然るに佐伯市は
 まだ文化財の指定をしていない段階で、この面での立ち
 おくれを乞ふことと出来ぬ。文化財の扱いについて前
 向きを施設を要望し、三の丸の御殿について、その一
 環として、その保存について深甚の考慮を望ぶ次第であ
 る。

就いては左記四項を掲げて、市当局当業者の考慮を求
 める。

- (一) 文化会館を、問題のない地を選んで建てることとは出
 来ないか。
 - (二) 三の丸に建てるとしても、御殿は是非残してほしい。
 - (三) 御殿の位置を変えることは好ましくないが、止むを
 得ざれば解体移転なり引き移転なりして、三の丸の
 中に残し、稀少価値の高い此の文化財を保存してほ
 しい。
 - (四) 更に唯残すでなしに、此の建物ノ歴史にふさわしい
 活用の方法を考えてほしい。
- 以上及びとり筆者の希望のみでなく、二百有余の佐伯
 史談会員全員の切なる声であることと申し添えて、ペン
 を擱く。

(田原阪崇勲碑)



研究

田原阪崇勲碑

西南の役古戦場の碑文

益田 淳
 (南海部師範生時字上小倉)

はじめに

西南の役古戦地として有名な田原阪は、大牟田から
 熊本市へ向う国道二百八号線の中開地、木葉から植木に
 通ずる間道を約一キロ西南下した
 地点にある。

記念碑のある田原阪の頂上附近
 は、前合にわたるがな丘陵で、き
 りいに公園化され、

記念碑もあり、当時
 の激戦と物語る多敷
 の弾痕をとりためた古
 い民家一棟も現存し
 ている。

此の記念碑は総高
 約六メートルの大き
 な大理石の自然石で、
 碑面上部に有柳川宮
 権仁親王の御添筆になる

「崇勲」の文字が、篆書体で力強く陰刻さ
 れ、其の下方に同殿下の横文が、十四行に
 あり、陰刻されている。碑文の書者は佐伯
 に古縁深い長月新太郎先生であり、楷書体

